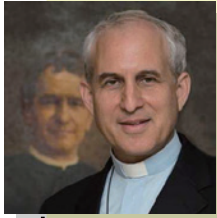


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.94 - 2016年10月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



兄

弟、友人の皆さん、

私たちは世界宣教の日の月を過ごしていますが、この主日は、今年特別な意味を帯びています：第90回世界宣教の日が祝われ、同時にそれは、いつくしみの聖年を飾るものでもあります。教皇フランシスコのメッセージ、「いつくしみをあかしし、宣教する教会」は、たいへん明快に、直截な言葉で私たちに語ります。(下を参照)

メッセージは基本的に、私たちがすべての人への宣教者となるように呼ばれていることを理解できるように、助けるものです。それは何よりも、御父があわれみ深いからです。「神はすべてをあわれんでくださいます。神の愛はすべての人に向けられており、神のあわれみはすべての被造物に及びます。」

そのため、今月、皆さんに-特に宣教促進担当者の皆さんに-次のことを呼びかけます：(1)このメッセージを個人的に、真剣に学ぶこと；(2)知的アプローチをもって、また創意工夫をもって、管区レベルで、またサレジオ家族にメッセージを知らせること；(3)サレジアンとして、宣教者、いつくしみ深い教会となった成功体験を集め、広めること。私は教皇のこのメッセージのうちに、私たちの宣教者としての養成を、年ごとに、体系的に力づけていく素晴らしい機会があると考えています。実り豊かな学びを、そして感謝します！

宣教顧問

ギジェルモ・バサニェス神父

MISSIO “AD GENTES” すべての人への宣教は、計り知れないいつくしみのわざ

「教

会が現在、祝っている『いつくしみの特別聖年』は、2016年世界宣教の日にも特別な光を投げかけています。この聖年は、『諸国民への宣教 (missio ad gentes)』を、計り知れない大なる精神的、身体的な慈善のわざとしてとらえるよう、わたしたちを招きます……あらゆる民族と文化は、すべての人への神のたまものである、救いの知らせを受ける権利をもっています。いかに多くの不正義、戦争、人道危機が今も解決策を求めているかを考えれば、このことはなおいっそう、必要不可欠です。」

教皇フランシスコ 2016年世界宣教の日メッセージより

全文：<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/doc/mssn/16mssn.htm>



新しいサレジオ宣教の十字架

今年から、サレジオ宣教派遣のメンバーは同じ宣教の十字架を受けることになりました。

- **十字架**：第一の力強いシンボルは、十字架そのものです。
- **良い羊飼い**：十字架は、私たちのカリスマに従い、牧者としての限界を設けない自己贈与、サレジオ精神の中核である牧者の愛のうちに生きられます。
- **Da mihi animas coetera tolle**：サレジオのモットーは、宣教の文脈で特別な意味を持つようになります：派遣された相手のため、その人々の救いの道具となるべく、限界を設けずに自分をささげるためにすべてを後にする。

- **良い羊飼いの上に降る聖霊**：聖霊なしには、聖霊の光、識別、力、聖性なしには、あらゆる宣教活動は、遠くの地で行われている、時には空しい活動の寄せ集めにすぎなくなります。

- **マタイ 28・19**：“Euntes ergo docete omnes gentes baptizantes eos in nomine Patris et Filii et Spiritus Sancti” は復活された主が与えられた宣教の任務の中心です。

- **Invio 遣わされる**：この言葉は単純で意味深いものです。宣教者は遣わされます；主の名によって、教会、会の名によって、使徒的任務を実現するため、出かけて行きます。

- **扶助者聖母大聖堂**：この大聖堂から最初の宣教団が1875年11月11日、派遣されました。私たちはマリアのように宣教者となる召命を喜んで受け入れ、マリアのように、仕えるためにすぐに出かけて行きます；マリアのように、若者の必要に注意を傾け、そして喜びの源泉を若者たちに教えます：「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください！」



イエスを告げ知らせるために宣教師になるのは素晴らしいこと

モ

ンテ・オリヴェト（イタリア）で修練生だったとき、私は宣教グループのリーダーに任命されました。イエスとイエスの教えについて何も聞いたことのない人々の中でサレジオ会員として働きたいという望みを感じ始めたのは、その時からでした。私は当時の宣教顧問ベッリード神父に手紙を送り、「キリスト教徒が少ししかない」ところに送ってほしいとお願いしました。日

本に送られたのはそのためだと思いきや、本当に少ししかいません。

今、長年宣教師として働いてきて、ならない最大の挑戦は世俗主義だのですが、宗教においては貧しいので、神秘的な雰囲気を持つものがありますが、信仰や道徳を含むキリストは恐れると言えるでしょう。それは、

日本の宣教師として、私にとってい尋さんのことかもしれません。何年かです。2014年8月15日、彼はアフ



師として初誓願を立てました。現在、モシ（タンザニア）で哲学を勉強中です。

宣教師になることを考えている多くの若いサレジオ会員に、私はこのように言いたいと思います：親愛なる若い友人の皆さん、日本での50年にわたる宣教師としての生活、数々の失敗や事故を経て、私は今、信じています。この地上で私たちにできる最高のことは、イエスが喜びあふれる知らせをもたらされるということ、イエスの示してくださる道は私たち皆を幸せに導くということ、人々に知らせることだと。イエスの道は険しい上り道ですが、見晴らす景色は美しいものです。人生は一度きりですが、イエスのため、み国のためならば、人生を賭ける価値は本当にあります。

イタリア出身 日本の宣教師 **アキレ・ロロピアナ**神父

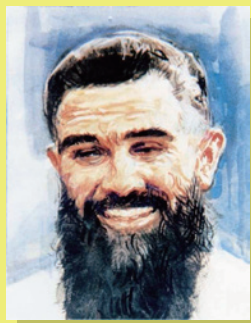
ます。日本には、キリスト教信者が

日本の宣教師が向き合わなければ、思います。日本人は、宗教心は豊かです。言い換えれば、日本人は、神聖に対しては、何であれ深い尊敬を抱教の生き方に賭けて実際に歩むこと日本人の強い責任感からも来ていま

ちばん大きな喜びは、ヤコブ森戸千前に私が洗礼を受けた日本の青年リカ東管区 AFE のサレジオ会宣教

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエル・ルイジ・カメローニ**神父



修道共同体の長上ロザリオ・ストロシオ神父は、インドの宣教師、神の僕**フランチェスコ・コンヴェルティエーニ**神父（1889-1971）の訃報を次の言葉で締めくくっています：「フランチェスコ神父を知る人々は、告解のとき、あの弱々しいのに情熱に満ちた声で与えた彼の助言や勧めを、いつまでも愛情深く思い出すでしょう：『靈魂を愛しましょう、靈魂のためだけに働きましょう……人々に寄り添いましょう……私たちが愛しているとわかるように人々と接しましょう……』。フランチェスコ神父の全生涯は、最高に実り豊かな司祭職と宣教の働きの、素晴らしいあかしでした。それはこの単純な言葉に要約できるでしょう：『キリストのために靈魂を勝ち取るには、善良と愛以上に力ある方法はない！』」



サレジオ会の宣教の意向

すべてのサレジオ会員が、福音宣教の喜びと責任を再発見しますように。

教皇フランシスコは、心をとらえてしまう‘墓場の心理’、司牧における無気力、物悲しさ、希望のなさを乗り越えるよう、私たちを招きます（『福音の喜び』80-83）。人々の救いへの情熱と、イエス・キリストのうちにある満ち満ちたいのちの体験を分かち合う喜びを、すべてのサレジオ会員が再発見するよう祈りましょう。

